

学校だより

翔 空

No. 38 平成24年 1月31日 (火)
郡山市立喜久田中学校長 大堀 昌弘

「翔空」の由来 〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚なこの学舎から、希望に燃え限らない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

〔著名な古典の一節〕

シリーズ百人一首を終え、今回から著名な古典の一節を紹介していきたいと思えます。まずは、『枕草子』（清少納言作）からです。（現代語訳）

春はあけぼのがいい
夏は夜
秋は夕暮れ
冬は早朝

〔原文〕〔第一段の一部（冬の段落のみ）を抜粋〕

冬は、つとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きにも、またさらでもいと寒き炭、持てわたるも、いとつぎゆくゆるびも、いけば、火桶の火も白き灰がちになりてわるし。

※ 要約
冬は早朝がいい。雪の降った朝はもちろん、霜のおりているのも風情がある。また、そうでなくても、寒い朝に火を急ぎおこし、（宮中の）廊下に行くのも似つかわしい。昼ごろに寒さがゆるみ、灰が白くなるのよくない。

※ 注 釈
作者清少納言は、中宮定子（ちゆうぐうていし）の経房として出仕し、その経書をもとに『枕草子』を書きました。その鋭い感性と簡素な文章が特徴です。『源氏物語』の紫式部も中宮に仕えましたが、二人の女性の間で確執が伝えられています。



「オリオン座にまつわる思い出」

～星座を眺めながら思いに耽る～

毎年冬になると、楽しみにしているものが幾つかあります。クリスマス、お正月、豆まき、しぶき氷、そしてオリオン座。今回は、冬の代表的な星座、オリオン座について少し話をしましょう。

誰もが知っているこの星座、調べてみると、意外にもギリシャ神話の他、様々なところでとりあげられてきました。古代のシュメール人はこの星たちを羊に見立て、古代中国では、オリオン座は28の占星術の宿（二十八宿）のうちの1つで Shen（參）と名付けられていました。これは明らかに「3」を意味すると考えられ、オリオンの三つ星が名の由来であろうと考えられています。日本では、戦国武将で有名な毛利氏の家紋である「一文字に三つ星」の三つ星が、このオリオン座の三つ星を表していると言われています。

中央に三つ星が並んでいるのが目印のオリオン座（the Orion）。大きく、明るい星が多いため（1等星以上の星はリゲルとベテルギウスの2つ）、特に有名な星座のうちの1つとなっています。有名なだけに、しばしば文学作品などにも登場します。ちなみに、最近、天文学者の間でうわさされているのが、ベテルギウスが爆発して消えるというもの。（超新星爆発）そんなことになったら、冬の夜空にこの星座を眺めて、物思いに耽るのが楽しみ限りです。

実は、大変恐縮ですが、この星座、私にとって進路を決定する一つの要因となりました。高校生の頃、受験を勉強に疲れた私は、いつも外に出て星座を眺めていました。受験まで間もない12月、オリオン座の季節。星座を眺めているとなぜか、今自分のやっていることが本当にちびっけなことのように思えてきて、「受験だけが人生じゃないか」と自分自身を慰めました。そして、自分が好きなこととは一体何なのか、自分に問い詰めたのが、教職という道でした。今思えば、この決定は正しかったです。やりがいのある職に就いて、子どもたちと一緒に毎日仕事をしています。オリオン座に感謝したい！今回は、「つれづれなるままに」書いてしまったという感じがしますが、みなさんにとっての星座とは、どんな存在なのでしょう。一度ロマンチックなお話をお聞きしてみたいと思います。

さて、先週からインフルエンザ罹患者が増え、昨日朝の段階では、合計で12名となっています。（内10名が一年生と、一年生に集中しています）手洗い、うがい、マスク着用、加湿器の使用など予防を徹底して指導しておりますが、ご家庭のご協力も是非お願いします。学校としても、3年生がI期の推薦入試（2月2日・3日）なども控えているので、広がらないよう配慮してまいります。